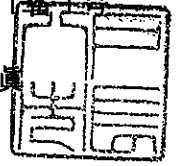


(様式例第11)

八市病第502号
令和元年10月4日

青森県知事 三村 申吾 殿

住所 八戸市内丸一丁目1番1号
申請者 氏名 八戸市長 小林 眞



八戸市立市民病院の地域医療支援病院の業務報告について

標記について、医療法第12条の2の規定に基づき、平成30年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒031-8686 八戸市内丸一丁目1番1号
氏名	八戸市長 小林 眞

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

八戸市立市民病院

3 所在の場所

〒031-8555 八戸市田向三丁目1番1号 電話 (0178) 72-5111

4 病床数

精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	合計
50床	6床	0床	0床	552床	608床

医療薬務課
1.10.-7

5 施設の構造設備

施設名	設備概要
集中治療室	(主な設備) 患者監視システム装置、IABP装置、人工呼吸器、血液浄化装置、血液ガス電解質分析装置、携帯用超音波診断装置、自動体外式除細動器 病床数 6床
化学検査室	(主な設備) 多項目自動血球分析システム装置、生化学自動分析装置、臨床化学分析装置、全自動化学発光免疫測定装置、血液ガス分析装置、全自動輸血検査装置、血球計測装置、自動電気泳動装置、血液凝固測定装置、自動グリコヘモグロビン測定装置、自動グルコース測定装置
細菌検査室	(主な設備) PCR検査用自動測定装置
病理検査室	(主な設備) ウルトラマイクローム
病理解剖室	(主な設備) 解剖台、照明装置、光学顕微鏡、洗濯機、遺体保管用冷蔵庫、臓器撮影装置
研究室	(主な設備) テーブル、椅子、パソコン、プリンター
講義室	室数 1室 収容定員 200人
図書室	室数 1室 蔵書数 2,727冊
救急用又は患者搬送用自動車	(主な設備) 保有台数 1台
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 m ² [共用室の場合] 薬局員室と共用

(注) 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器等を記入すること。

(様式例第12) 他の病院又は診療所から紹介された患者に対し医療を提供する体制が整備されていることを証する書類及び救急医療の提供実績

1. 地域医療支援病院紹介率及び地域医療支援病院逆紹介率

地域医療支援病院紹介率	83.6%	算定期間	30年 4月 1日～ 31年 3月 31日
地域医療支援病院逆紹介率	120.7%		
算出根拠	A : 紹介患者の数		8,980人
	B : 初診患者の数		10,737人
	C : 逆紹介患者の数		12,958人

(注) 1 「地域医療支援病院紹介率」欄は、AをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「地域医療支援病院逆紹介率」欄は、CをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 それぞれの患者数については、前年度の延数を記入すること。

(様式例第13) 救急医療を提供する能力を有することを証する書類

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

No.	職 種	氏 名	勤務の態様	勤務時間	備 考	
1	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	
2	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	
3	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	
4	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	
5	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	
6	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	
7	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	
8	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	
9	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	
10	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	
11	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	
12	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	
13	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	
14	医師		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 専従 <input type="checkbox"/> 非専従	7時間45分	

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	30床
専用病床	救命救急センター 30床 集中治療室 6床

(注) 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載すること。

3 重症救急患者に必要な検査、治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
手術室	486㎡	(主な設備) 結石破碎システム、術中患者監視システム装置、全身麻酔器、KTP/YAGレーザー手術装置、血液ガス電解質分析装置、天井懸架型手術顕微鏡装置、鼻内内視鏡下手術器械、人工心肺装置、超音波手術装置、自己血回収装置、移動型X線Fluor装置、眼科用手術装置、眼科用手術顕微鏡、アルゴンレーザー光凝固装置、腹腔鏡下胆嚢摘出術器、顕微鏡下手術支援用内視鏡装置、脳外科用手術ナビゲーションシステム、血管結紮器	可
急患室	51㎡	(主な設備) ベッドサイドモニター、超音波診断装置、自動体外式除細動器、無影投、人工呼吸器	可
内視鏡室	48㎡	(主な設備) 電子内視鏡システム装置、7ルボンプラズマ凝固付高周波手術装置、超音波内視鏡装置、カプセル内視鏡撮影装置	可
放射線科	273㎡	(主な設備) MRI、CT、一般X線撮影装置、X線透視撮影装置	可
生理検査室	115㎡	(主な設備) 超音波診断装置、循環器用超音波診断装置、誘発電位検査装置、医用サーモグラフィ装置、肺機能測定装置、脳波計、ホルター心電図解析装置、総合呼吸機能自動解析装置、心電計、負荷心電図検査装置	可
血管撮影室	75㎡	(主な設備) 循環器血管造影撮影装置、頭腹部血管造影撮影装置、心臓電気生理検査解析装置、心臓カテーテル検査装置、心機能解析装置、血管造影剤注入装置、経皮的補助循環装置	可

臨床検査室	727m ²	(主な設備) 多項目自動血球分析システム装置、生化学自動分析装置、臨床化学分析装置、全自動化学発光免疫測定装置、血液ガス分析装置、全自動輸血検査装置、血球計数装置、自動電気泳動装置、血液凝固測定装置、自動グリコヘモグロビン測定装置、自動グルコース測定装置	可
MEセンター	42m ²	(主な設備) アクサ-ム、輸液ポンプ、シリンジポンプ、低圧持続吸引器、小型携帯吸引装置、酸素・空気流量計、IPC装置	可
集中治療室	228m ²	(主な設備) 患者監視システム装置、IABP装置、人工呼吸器、血液浄化装置、血液ガス電解質分析装置、携帯用超音波診断装置、自動体外式除細動器	可
救命救急センター	586m ²	(主な設備) 患者監視システム装置、IABP装置、人工呼吸器、血液浄化装置、血液ガス電解質分析装置、熱傷用浴槽、熱傷用ベッド、携帯用超音波診断装置、自動体外式除細動器	可
NICU	54m ²	(主な設備) 新生児監視システム装置、血液ガス分析装置、小児用人工呼吸器、新生児保育器、新生児用聴力検査装置	可

4 備考

救命救急科において救急患者の受入れを行っている。

- ・平成9年9月 救命救急センター設置
- ・昭和43年9月 救急告示病院 指定

(注) 特定の診療科において、重症救急患者の受入体制を確保する場合には、その旨を記載すること。
既に、救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第8号）に基づき都道府県知事の救急病院の認定を受けている病院、救急医療対策の設備事業について（昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあつては、その旨を記載すること。

5 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	5,839人 (3,057人)
上記以外の救急患者の数	13,677人 (4,264人)
合計	19,516人 (7,321人)

(注) それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入すること。

括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

6 救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	1台
---------------	----

(様式例第14) 地域医療従事者による診療、研究又は研修のための利用(共同利用)のための体制が整備されていることを証する書類

1 共同利用の実績

①平成29年度共同医療機関延べ数	80医療機関
②上記①の医療機関のうち、開設者と直接関係のない医療機関の延数	80医療機関
③共同利用に係る病床の病床利用率	0%

(注) 前年度において共同利用を行った実績がある場合において、当該前年度の共同利用を行った医療機関の延べ数、これらの医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数、共同利用に係る病床の病床利用率を明記すること。

2 共同利用の範囲等

①CT(コンピューター断層撮影装置)
②MRI(磁気共鳴断層撮影装置)
③RI(ラジオアイソトープ検査装置)
④骨塩定量
⑤共同利用病床
⑥講義室(講堂)

(注) 当該病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象とする予定のものを明記すること。

3 共同利用の体制

- ア 共同利用に関する規定の有無 有 無
 イ 利用医師等登録制度の担当者 氏名:
 職種:

(注) 共同利用に関する規定が有る場合には、当該規定の写しを添付すること。

4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住所	主たる診療科名	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
別紙1のとおり				

注 当該病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関のみ記入すること。

常時共同利用可能な病床数	2床
--------------	----

(様式例第15) 地域医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有することの証明

1 研修の内容

別紙2「平成30年度 講演会・研修会実績（院外公開分）参照

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	16回
(2) (1) の合計研修者数	502人

(注) 1 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(注) 2 (2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

- ア 研修プログラムの有無 有・無
イ 研修委員会設置の有無 有・無
ウ 研修指導者

研修指導者氏名	職 種	診療科	役 職 等	臨床経験数	特 記 事 項
	医師	外科		48年	
	医師	救命救急科		36年	
	医師	泌尿器科		38年	
	医師	神経内科		36年	
	医師	外科		29年	
	医師	消化器科・内科		27年	
	医師	消化器内視鏡科		22年	
	医師	循環器科・内科		22年	
	医師	呼吸器科・内科		31年	

研修指導者氏名	職 種	診療科	役 職 等	臨床経験数	特 記 事 項
	医師	内分泌糖尿病科・内科		18年	
	医師	糖尿病代謝内科		19年	
	医師	第一小児科		39年	
	医師	第二小児科		34年	
	医師	第二外科		26年	
	医師	第三外科		24年	
	医師	小児外科		24年	学術委員会委員長
	医師	呼吸器外科		22年	
	医師	乳腺外科		29年	
	医師	脳神経外科		34年	
	医師	血管内脳神経外科		23年	
	医師	第一整形外科		25年	
	医師	第二整形外科		26年	
	医師	皮膚科		25年	
	医師	産科		13年	
	医師	婦人科		19年	
	医師	婦人科内視鏡外科		19年	
	医師	周産期センター		15年	
	医師	眼科		33年	
	医師	耳鼻咽喉科		20年	
	医師	第一精神科		37年	
	医師	第二精神科		11年	
	医師	第一麻酔科		29年	
	医師	緩和医療科		28年	
	医師	第一放射線科		26年	
	医師	第二放射線科		28年	
	医師	臨床検査科		27年	
	医師	救命救急センター		30年	
	医師	救命救急センター		30年	
	医師	総合診療科		32年	
	歯科医師	歯科口腔外科		20年	
	看護師	看護局管理室		38年	

研修指導者氏名	職 種	診療科	役 職 等	臨床経験数	特 記 事 項
	看護師	看護局管理室	副看護局長	36年	
	看護師	看護局管理室	副看護局長	35年	
	看護師	看護局管理室	副看護局長	21年	
	看護師	看護局管理室	副看護師長	35年	
	看護師	看護局管理室	副看護師長	32年	
	看護師	西7階病棟	看護師長	27年	
	看護師	西6階病棟	看護師長	21年	
	看護師	東6階病棟	看護師長	27年	
	看護師	西5階病棟	看護師長	23年	
	看護師	東5階病棟	看護師長	28年	
	看護師	西4階病棟	看護師長	30年	
	看護師	東4階病棟	看護師長	23年	
	看護師	西3階病棟	看護師長	21年	
	看護師	東3階病棟	看護師長	31年	
	看護師	周産期センター	看護師長	36年	
	看護師	新周産期センター	看護師長	19年	
	看護師	新周産期外来	看護師長	23年	
	看護師	未熟児センター	看護師長	27年	
	看護師	救命救急センター	看護師長	38年	
	看護師	救命救急センター	看護師長	16年	
	看護師	集中治療室	看護師長	33年	
	看護師	南病棟	看護師長	21年	
	看護師	手術室	看護師長	29年	
	看護師	外来	看護師長	38年	
	看護師	外来	看護師長	26年	
	看護師	透析センター	看護師長	29年	
	看護師	急患室	看護師長	27年	
	看護師	地域医療連携室	副室長	39年	
	看護師	医療安全管理室	副室長	31年	
	薬剤師	薬局	薬局長	29年	
	放射線技師	放射線科	技師長	37年	
	臨床検査技師	臨床検査科	技師長	36年	

研修指導者氏名	職 種	診療科	役 職 等	臨床経験数	特 記 事 項
	理学療法士	リハビリテーション科		38年	
	臨床工学技士	臨床工学科		28年	
	栄養士	栄養管理科		40年	

(注) 教育責任者については、特記事項欄にその旨を記載すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施 設 名	床 面 積	設 備 概 要
内視鏡室	48m ²	(主な設備) 上部・下部電子内視鏡システム
放射線室	273m ²	(主な設備) CTスキャン、アンギオ装置、一般撮影装置
手術室	486m ²	(主な設備) 人工心肺装置、電気メス麻酔器、手洗装置
講義室(講堂)	306.63m ²	(主な設備) テーブル、椅子、マイク、スクリーン
研究室	28.46m ²	(主な設備) テーブル、椅子、パソコン
図書室	83.51m ²	(主な設備) テーブル、椅子、パソコン、蔵書

(様式例第16) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	
管理担当者氏名	各担当部署

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、入退院診療計画書、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		電子カルテ内。紙媒体の記録に関しては、敷地内の各病棟、事務室、倉庫など。	電子カルテ内。 紙媒体の諸記録に関しては、各担当部署で保管・管理を行っている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	地域医療連携室	
	救急医療の提供の実績	医事課	
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	管理課	
	閲覧実績	管理課	
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	医事課	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式例第17) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

閲覧責任者氏名	
閲覧担当者氏名	管理課 診療局事務 医事課 医療情報管理G 地域医療連携室 地域連携G
閲覧の求めに応じる場所	閲覧室、相談室等
<p>閲覧の手続の概要</p> <p>1. 診療記録の閲覧について（医師）</p> <p>(1) 閲覧を希望する場合は「病歴資料閲覧許可書」を記入し診療局事務に提出</p> <p>(2) 管理者決済後、許可書を診療情報管理室に提出し、閲覧用のIDを発行</p> <p>(3) 閲覧室もしくは医局にて当院職員立ち合いのもと閲覧する</p> <p>2. 診療記録の閲覧について（患者等）</p> <p>(1) 閲覧を希望する場合は「診療記録提供申出書」を記入し医事課に提出</p> <p>(2) 院長決済後、閲覧承諾となった際は閲覧希望者に連絡し、閲覧の日時を調整する</p> <p>(3) 閲覧室にて閲覧する</p> <p>3. 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧について</p> <p>(1) 閲覧を希望する場合は、医療連携室に連絡し、希望する内容を担当者に伝える</p> <p>(2) 閲覧日時を調整する</p> <p>(3) 地域医療連携室となりの相談室にて閲覧する</p>	

前年度の総閲覧件数		1件
閲覧者別	医師	0件
	歯科医師	0件
	地方公共団体	0件
	その他	1件

(様式例第18) 委員会の開催の実績

委員会の開催回数	2回	
委員会における議論の概要		
<p>① 医療連携懇談会（平成31年1月19日）</p> <p>②第26回 八戸市立市民病院 地域医療連携推進協議会（平成31年3月6日）</p> <p>※議論の概要については別紙3「報告書」参照</p>		

(注) 委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

(様式例第19) 患者相談の実績

患者相談を行う場所	1階相談室・その他（病棟説明室） など
主として患者相談を行った者 (複数回答可)	地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室 地域医療連携室
患者相談件数	18,942件
患者相談の概要	
別紙4「医療相談状況」のとおり	

(注) 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

(様式第 20)

その他の地域医療支援病院に求められる取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	
審査体制区分	認定時期
一般病院種別B	平成12年4月17日～平成17年4月16日
Ver. 4.0	平成17年4月17日～平成22年4月16日
Ver. 6.0	平成22年4月17日～平成27年4月16日
3rdG : Ver. 1.0	平成27年4月17日～平成32年4月16日
上記4回とも、(財)日本医療機能評価機構による評価を受けている	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・情報発信の方法、内容等の概要	
①病院広報誌「わ」にて病院の情報を地域の医療機関に発信している	
②八戸市の広報にて予約制について周知を図っている	
③毎月、希望している地域の医療機関に対してメールにて情報配信を行っている	

3 退院調整部門

① 退院調整部門の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・退院調整部門の概要	
地域医療連携室に退院支援グループをおき、看護師、医療ソーシャルワーカーを配置している	

4 地域連携を促進するための取組み

① 地域連携クリティカルパスの策定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	
①脳卒中地域連携診療計画書、大腿骨頸部骨折地域連携診療計画書	
②がん(胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、肝臓がん、緩和ケア)	
・地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み	
② がん当院医師に対して、パスを使用するように周知(不定期)している	
② 地域連携診療計画書に関する運用検討会(年3回参加)	

登録医療機関名簿
(同一の2次医療圏に所在する医療機関のみ)

No.	医療機関名称	開設者名	住 所	主たる診療科	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
1	ABEビルクリニック	阿部 一郎	八戸市本徒士町10-2	内、小	無
2	相沢耳鼻咽喉科医院	相沢 宏	八戸市根城五丁目2-7	耳、気管食道	無
3	あらい整形外科リハビリテーションクリニック	荒井 俊治	八戸市柏崎五丁目5-17	整、リウマチ、リハ	無
4	石田温泉病院	石田 博文	おいらせ町上前田21-1	内、神、呼、循、放、リハ、内分	無
5	おいらせ病院	おいらせ町長	おいらせ町字上明堂1-1	内、小、外、整	無
6	大里脳神経リハビリテーションクリニック	大里 孝夫	八戸市新井田西三丁目15-15	脳、神内、内、リハ	無
7	おっとも脳神経クリニック	乙供 通則	八戸市柏崎四丁目14-48	脳、放、内、神内、リハ	無
8	於本病院	於本 淳	八戸市大工町10	内	無
9	春日井内科医院	春日井 清	八戸市小中野四丁目5-16	内	無
10	かねた内科耳鼻科医院	金田 昭治	八戸市本鍛冶町1	内	無
11	川守田外科胃腸科	川守田 究	南部町大字剣吉字堰合13-2	外、内、小、皮、肛	無
12	きく皮膚科	山谷 眞吾	八戸市河原木字谷地畑118-5	皮	無
13	きくち眼科	菊地 泰弘	八戸市大字三日町30番地1 アクスビル2階	眼	無
14	岸原病院	岸原 千秋	八戸市柏崎六丁目29-6	内、呼、循、胃、神内、リハ	無
15	北村耳鼻咽喉科医院	北村 箴至	八戸市小中野三丁目1-30	耳	無
16	きどクリニック	城戸 啓治	八戸市田向五丁目22-1	泌、内、外	無
17	くどう整形外科クリニック	工藤 祐喜	八戸市売市四丁目7-14	整、リハ	無
18	倉本クリニック	倉本 雅規	八戸市廿六日町3 八青パーキングビル1F	婦、産	無
19	小松内科医院	小松 修	階上町道仏字天当平1-189	内、消、循、理	無
20	境皮膚科医院	境 繁雄	八戸市売市二丁目3-9	皮	無
21	坂本内科クリニック	坂本 良明	八戸市吹上三丁目6-16	内	無
22	佐々木泌尿器科病院	佐々木 桂一	八戸市根城四丁目6-23	泌、神、肛、内	無
23	下田診療所	渡邊 珠夫	おいらせ町向川原3-55	内、消	無
24	城下やえがき整形外科	八重垣 誠	八戸市城下四丁目4-18	整	無
25	菅原内科	菅原 英保	八戸市大字窪町4	内、循、呼、消	無
26	洲崎耳鼻咽喉科気管食道科医院	洲崎 啓治	八戸市内丸三丁目2-8	耳、ア、気管、食道	無
27	鈴木内科	鈴木 竹一	八戸市尻内町字八百刈26-3	内	無
28	スワンクリニック	小笠原 和人	南部町沖田面木字千刈37-1	整、外科、小	無
29	青南病院	千葉 潜	八戸市田面木字赤坂16-3	精、神、心内、内	無
30	聖マリアハートクリニック	吉田 一弘	八戸市東白山台三丁目20-3	循	無
31	せきあい内科	堰合 恭弘	八戸市河原木字谷地畑121-4	内、循、消、呼	無
32	関口内科クリニック	関口 孝	八戸市大久保字西ノ平25-72	内、呼、循、小、麻	無
33	高橋医院	高橋 秀禎	八戸市番町40	内、呼、胃、外、肛、放	無
34	滝沢小児科内科医院	滝沢 鷹太郎	八戸市根城五丁目2-16	小、内、ア	無
35	種市外科	種市 襄	八戸市小中野一丁目3-21	外、整	無
36	塚原整形外科医院	塚原 孝	八戸市鳥屋部町1-13	整	無
37	巴小児クリニック	巴 朝夫	八戸市下長四丁目10-33	小	無
38	内科種市病院	鳥畑 鴻次	八戸市大字是川字土間沢1	内	無
39	なかざわスポーツクリニック	医療法人なかざわ整形外科	八戸市湊高台二丁目12-2	整、リハ、リウマチ	無
40	中園内科クリニック	中園 誠	八戸市田向二丁目5-28	内	無
41	中野眼科	中野 美奈	八戸市新井田西三丁目19-2	眼	無
42	南郷診療所	八戸市長	八戸市南郷区島守梨子ノ久保25-3	内、歯	無

No.	医療機関名称	開設者名	住 所	主たる診療科	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
43	ナンブクリニック	陰山 俊之	南部町沖田面字千刈47-1	内、胃、外、整、リハ	無
44	南部町医療センター	南部町長	南部町大字下名久井字白山87-1	内、外、小、産、婦、小児、整、リハ、心、脳、精	無
45	南部病院	小笠原 博	南部町沖田面字千刈36-2	内、胃、小、外、整、リハ	無
46	西村産婦人科クリニック	西村 幸也	八戸市小中野四丁目8-18	産、婦	無
47	西村耳鼻咽喉科医院	西村 哲郎	八戸市南類家二丁目17-28	耳、アレ	無
48	はかまだ耳鼻咽喉科医院	袴田 勝	八戸市大字河原木字谷地畑120-1	耳	無
49	橋本耳鼻科クリニック	橋本 敏光	八戸市湊高台五丁目20-18	耳	無
50	はしもと小児科	橋本 剛	八戸市新井田西三丁目16-15	小	無
51	長谷川内科胃腸科医院	長谷川 泰正	八戸市上徒士町2-1	内、胃	無
52	はちのへ99クリニック	藤川 博康	八戸市南類家五丁目1-8	外、消、内、肛	無
53	八戸クリニック	和田 潤郎	八戸市柏崎一丁目8-32	産婦人科	無
54	はちのへ江陽クリニック	三浦 浩康	八戸市江陽二丁目13-45	腎、泌、内、外	無
55	八戸在宅クリニック	山名 保則	八戸市大字岩泉町7	内	無
56	八戸生協診療所	八戸医療生協共同組合	八戸市南類家一丁目17-2	内、消、循、呼、神内、放	無
57	八戸整形外科	朴 鍾大	八戸市日計一丁目2-42	整、リウマチ、リハ	無
58	八戸市総合健診センター	八戸市長 小林 眞	八戸市青葉二丁目17-4	健診	無
59	八戸新井田クリニック	池田 成徳	八戸市新井田字後庵下12	泌、皮、内、麻	無
60	メディカルコート八戸西病院	公益財団法人シムラハローバンク協会	八戸市大字長苗代字中坪77	内、産、神、外、整、婦、小、心、脳、精、リハ	無
61	はちのへハートセンタークリニック	菊池 文孝	八戸市田向二丁目1-2	循	無
62	国立病院機構 八戸病院	及川 隆司	八戸市吹上三丁目13-1	内、循、小、リハ	無
63	はちのへファミリークリニック	小倉 和也	八戸市城下四丁目11-11	内、小	無
64	はまなす医療療育センター	青森県知事	八戸市大久保字大塚17-729	整、小、リハ	無
65	はらだクリニック	原田 英也	南部町大字苔米地字白山堂13-2	外、内	無
66	東八戸病院	秋山 弘之	八戸市大字大久保字西ノ平25-440	神、精、循、内	無
67	ひかり内科クリニック	金田 泰一	八戸市青葉三丁目31-5	内	無
68	吹上眼科	久保 勝文	八戸市吹上二丁目10-5	眼	無
69	本田整形外科クリニック	本田 忠	八戸市小中野二丁目9-4	整、リハ、リウマチ	無
70	松橋眼科クリニック	松橋 英昭	八戸市売市二丁目12-32	眼	無
71	丸山クリニック	丸山 章	八戸市湊高台五丁目24-3	外、内、肛	無
72	みうらクリニック	三浦 博光	階上町蒼前西三丁目9-3177	内、小、外	無
73	みちのく記念病院	杏林会	八戸市小中野一丁目4-22	内、循、呼、リハ、精、神、心	無
74	岬台医院	品川 博樹	八戸市岬台二丁目6-5	内、消	無
75	湊病院	工藤 清太郎	八戸市大字新井田字松山下野場7-15	内、消、外、精、整、リハ、心、泌	無
76	南類家整形外科クリニック	栗崎 和之	八戸市南類家四丁目2-30	整、リハ、リウマチ	無
77	総合リハビリ美保野病院	渡邊 一夫	八戸市大久保字大山31-4	内、神、精、整、リハ、小、齒	無
78	村井内科クリニック	村井 千尋	八戸市吹上三丁目5-3	内、リウマチ、呼、循	無
79	村田内科	村田 貞幸	八戸市新井田西二丁目7-8	循、内	無
80	室岡整形外科記念病院	室岡 孝信	八戸市長者三丁目3-23	整	無

平成30年度 講演会・研修会実績(院外公開分)

	年月日	講演会・研修会名	講師	参加人数(人) ()院外参加者数
1	30.8.10	正しいがん情報の見極め方	日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科教授 勝俣 範之	76 (17)
2	30.9.12	乳癌薬物療法のNext Step	東北大学大学院医学系研究科 乳腺・内分泌外科学教授 石田 孝宣	65 (13)
3	30.10.31	緩和ケア病棟における看護師の役割とは	盛岡赤十字病院 緩和ケア認定看護師・がん専門看護師 高屋敷 麻理子	130 (44)
4	30.5.10	気管挿管・胃管挿管実習	八戸市立市民病院 院長 今 明秀	21 (3)
5	30.6.14	CV・CVポートセミナー	八戸市立市民病院 院長 今 明秀	21 (4)
6	30.6.28	敗血症実技セミナー	八戸市立市民病院 救命救急センター 医長 近藤 英史	16 (2)
7	30.12.6	気道確保困難講習会	八戸市立市民病院 院長 今 明秀	14 (2)
8	31.2.14	研修医完成講座特別講演会 「中毒セミナー」	米盛病院 副院長 富岡 譲二	27 (1)
9	30.4.28	感染対策講習会 「標準予防策や多剤耐性菌感染対策について」	八戸市立市民病院 感染管理認定看護師 大澤純子	0 (66)
10	30.5.30	栄養療法について	八戸市立市民病院 糖尿病代謝内科部長 工藤貴徳	20 (2)
11	30.6.27	PEG管理	八戸市立市民病院 消化器内科部長 沖元二	26 (6)
12	30.7.25	経腸栄養剤の基本知識	キュービー株式会社	17 (5)
13	30.10.24	DESIGN-Rについて、褥瘡の栄養管理について 褥瘡の栄養管理について	八戸市立市民病院 主任看護師沼野美幸 八戸市立市民病院 主任栄養士平恵子	18 (4)
14	30.11.28	口腔ケアについて	八戸市立市民病院 歯科口腔外科 部長榊広剛	20 (4)
15	30.12.12	嚥下訓練について	八戸市立市民病院 言語聴覚士 浜谷雄太	16 (2)
16	31.3.6	褥瘡の治療について	八戸市立市民病院 皮膚科部長 村井孝弥	15 (3)
17				()
18				()
19				()
合計				502 (178)

平成30年度 登録医との懇談会における意見

1. 脳神経外科で行っている漢方外について、どのように紹介すれば良いのか質問を受けたので、説明をしましたが、外来や漢方専門医取得の指導を行っていることも再度周知願いたい。
⇒広報誌「わ」に漢方外来等の案内を掲載し、384 医療機関に送付。
2. 当院内内分泌糖尿病科の外来から青森労災病院への転院がある場合、現行は医師と医師が直接やり取りを行っているが、青森労災病院の医師から診療が中断することもあるため、今後は連携室を介して行って欲しい。
⇒青森労災病院から「八戸市立市民病院からの入退受け入れフロー」を受理し、内分泌糖尿病科に通知。
3. 紹介受け入れに協力したい。しかし、VRE 保菌者の患者については、自院からの転院が停滞することが予測され躊躇しているのが現状である。
感染予防にあたって教育とコストに苦慮している。
⇒スクーリングを繰り返し実施していく。
4. 美保野病院から消化器内科を入れたので、内視鏡が必要な患者を受け入れる。
5. VRE に関して、個人病院だと感染症の患者に使用する手袋等はすべて患者から買っていただくため患者負担が大きい。それもあって受入が難しい。
6. 下肢静脈瘤の患者を紹介するタイミング、紹介先の明確化。

報 告 書

事業管理者	院長	室長	副室長	GL	室員	RR 職員
報告日	平成 31 年 3 月 7 日					
報告者	所属	職・氏名				
	八戸市立市民病院 地域医療連携室					
件名	第 26 回 八戸市立市民病院地域医療連携推進協議会					
開催日時	平成 31 年 3 月 6 日 (水) 19:00~19:30					
場所	講堂 3					
出席者	別紙のとおり					
<p>・協議会の会長の選任</p> <p>新しい会長を選任。美保野病院 院長 廣田 茂 様に就任して頂くことになった。</p>						
<p>・ご意見など</p> <p>・木村委員：VRE の影響は大きいですか？</p> <p>→当院：大きいと思います、病床も縮小しております。それでも搬送患者は来ます、基本的に三次救急患者だけを対象としていますが、現実的には他院への搬送が断られて一周まわってもう一度依頼がきて、受けることも多いです。現在の病床利用率は 77.8%まで低下しています。</p> <p>また、VRE の数は減っていません。先日国立感染研究所の方に来て頂き、診療制限解除は慎重に行うように言われております。5月連休後の解除予定については今のところ変更予定はありません。</p> <p>・木村委員：VRE について他の地域はどうなんでしょう？</p> <p>→矢野委員：県病で出た VRE の方の一人は、五戸からの紹介患者だった。あくまでも検査をしないと出ないものである為、地域レベルでどうなのかはなんとも言えない。</p> <p>→木村委員：(各地域に) ベースに元々いた可能性有りますね。医師会から VRE チェック用紙が最近まわってきた、今まではしてなかったということですよ。</p> <p>・村田委員：手術件数は減りましたか？患者から聞かれたんです、市民病院で手術受けて良いか？と。</p> <p>→当院：全体的な件数は減っていますが、おおむね横ばいです。基本的に手術は予約入院が対象なので。</p> <p>・松橋委員：共同利用の数が減っているが、今後も減っていくだろうか？</p> <p>→当院：共同利用する医療機関が偏っている為、特定の医療機関による影響が大きいと考えている。</p> <p>→木村委員：共同利用で悪性疾患は診ない。また、整形の開業医であればだいたい MRI 等を持っているから、市民病院に依頼せずとも地域でまかなえてしまう印象はある。</p> <p>・矢野委員：圏域で新たに実施している入退院調整ルールについては、引き続き今のルールに則って入院時、退院時の引継ぎにご協力お願いします。</p>						

平成30年度医療相談状況

医療、福祉相談

項目	件数
経済的問題	955
心理的問題	55
社会的問題	2
受診・受療相談	1,355
家族関係	179
社会復帰	663
介護相談	561
転院調整	8,899
施設入所	1,170
自宅退院	3,359
その他	678
合計	17,876

その他

項目	件数
苦情	93

がん相談

項目	件数
がんの治療	80
がんの検査	18
症状・副作用・後遺症	44
セカンドオピニオン(一般)	12
セカンドオピニオン(受入)	4
セカンドオピニオン(他へ紹介)	12
治療実績	1
臨床試験・先進医療	4
受診方法・入院	10
転院	33
医療機関の紹介	17
がん予防・健診	7
在宅医療	0
ホスピス・緩和ケア	20
症状・副作用・後遺症への対応	199
食事・服薬・入浴・運動・外出など	29
介護・看護・療育	15
社会生活(仕事・就労・社会保障制度)	23
医療費・生活費・社会保障制度	97
補完代替療法	1
不安	235
告知	1
医療者との関係・コミュニケーション	32
患者-家族間の関係・コミュニケーション	25
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	3
患者会・家族会(ピア情報)	32
その他	19
不明	0
合計	973